

第12回 みんなの会次第

令和 元年6月12日

吉原まちづくりセンター

「こんな本を買ってほしい」

環境学習施設で購入されることを推薦される本を提示してください。ジャンルでも OK です。50冊購入する予定です。

クリーン工房さんから、50冊の資料提示があった（添付資料1）。坂本さんから約50冊の本の提示があった。熊谷、鳥谷から約10冊の本の提示があった（添付資料2）。

まず、ルールを決めることとなった。

① テーマはどうするか

→バランスをとる

② 年代はどうするか

→バランスをとる

③ 貸し出しはするか

→貸出しはする予定がない。

→座って1時間位で読める本にする。

④ 家庭にはない図鑑にすればいいのではないかと。学研の図鑑シリーズにするとグループ学習に役立つ

→グループ学習に必要な本は講師が持っていることが多く、50冊の内の何冊では中途半端。

→図鑑は高額で全て揃えることは予算的に無理。

⑤ 図書館にない稀覯本がよいのではないかと

→管理が大変。

→ごく基本的な本を揃えた方がよい。長く読まれる定番がよい。

⑥ 50冊は少なすぎないかと。もっと本を増やすために寄贈を受けた方がいいのではないかと。

→管理の問題がある。来館者からの寄贈（リサイクル図書）、図書館の除籍本は温浴施設の大広間に置く予定。冊数を管理しなければいけない本とは配架場所を別にしたい。

→本棚の形を工夫して、本の表紙を見せるようにしてはどうか。

⑦ 推薦された本の中から50冊を選び、得票数の多かったものから選んだらどうか。

→ジャンルとして、何冊にするかを選び、各個人の推薦図書を1冊ずつ入れるようにしたい。

松田文庫、郷土文庫を環境学習施設において欲しい。大広間に置く本はお年寄りの健康に関するものを積極的に受け入れて欲しい、との意見がでた。

ジャンル分けを行った。親に読んでもらう子供向けの絵本は 20 冊、親が子供を遊ばせながら読むコミックエッセイ等絵の多い本を 10 冊、展示や講習を考えるとときのきっかけとなる本を 20 冊。きっかけ本の内訳は環境学習施設のキラーコンテンツを考えようで出てきた 6 分野（周囲との関係については除く）と焼却施設の案内について、3 冊ずつ。（①リデュース、②リユース、③リサイクル、④自然教育、⑤公害教育、⑥グリーンツーリズム、⑦焼却施設の案内）

会議などで提案された本を添付資料 3 にまとめた。資料を参考にしつつ事業者において最適な本が選定されることを期待する。

松田文庫については添付資料 4 を参照。この中の何冊かを選んで収蔵する。

郷土文庫については、公害のアーカイブ、浮島の自然、紙芝居「富士山とごみとわたし」が提案された。

同時期に富士市立図書館企画「環境月間」が行われていたので、案内を添付資料 5 とした。